

2024 年度 訪問看護質向上委員会 活動報告

■委員名	委員長：田川由香 副委員長(書記)：黒岩美奈子 委 員：久保好子 小枝美由紀 信川千賀子 久保処真弓 オブザーバー：岩崎美智子
■開催回数	12 回 (全て Web 開催) (4 月 12 日、5 月 10 日、6 月 21 日、7 月 26 日、8 月 9 日、9 月 13 日、10 月 25 日 11 月 8 日、12 月 13 日、1 月 10 日、2 月 14 日、3 月 14 日)
■活動目標	1. 訪問看護部会ならびに各委員会・ブロック会で課題とされた訪問看護の質向上の内容を精査・検討する。 2. 訪問看護ステーションの標準化を目指し、質の高い訪問看護を提供できるよう、訪問看護ステーションで必要なスキル等の基本的な情報の作成を実施し、ステーションの質の担保を統一する。
■活動内容	1. 訪問看護部会で課題とされた内容ならびに各訪問看護事業所から兵庫県看護協会訪問看護総合支援センターへの質問事項を精査・検討する。 1) 課題とされた内容の理由や根拠を明確にし、内容について精査・検討する。 2) 兵庫県看護協会訪問看護総合支援センターへの質問事項については管理者育成委員会と協同で回答作業を行う。 3) 課題がない場合は、委員会内で検討課題を話し合い看護部会へ提示・提案する。 4) 精査した検討すべき内容は優先順位を決定し、取り組む内容を絞り込む。 ・訪問看護部会と委員内より、痰吸引は ALS 等の成人難病患者だけでなく特別支援学級や放課後デイ等の小児も含まれるケースが増えてきている現状があり、ヘルパー痰吸引研修自体実施をしていない事業所や地域差がある可能性、ヘルパー痰吸引研修終了後の定期的なフォローアップがきちんとされていないのではないか、今後フォローアップ体制を確立していくことが必要ではないか、等のヘルパーの痰吸引研修終了後の課題検討案を元に「介護職員の痰吸引研修終了後の課題及び、訪問看護師によるフォローアップの現状と課題」として会員向けのアンケート調査を 2023 年 12 月 8 日～2024 年 1 月 20 日に実施した。アンケート配信数 496 件に対し回答数は 103 件(回答率 20.7%)であった。その内 46 件(44.7%)が現在もしくは過去に介護職員の痰吸引研修を実施したことがあった。研修終了後の課題は、「フォローアップの研修に時間の都合で参加できない」が最も多く 18 件であった。研修終了後のフォローアップを実施しているのは 10 件 (20.4%)と少数であった。フォローアップの実施頻度は、82.0%の事業所が年に 1 回以上の実施をしており、内容としては、手技の全確認が 9 件と最も多かった。フォローアップ実施における課題は、「介護士と時間が合わない」との回答が最も多かった。また、フォローアップを実施していない理由、介護職員の痰吸引研修をそもそも実施していない理由に関しても、「時間がない」、「機会がない」といった内容が最も多い結果であった。痰吸引研修終了後のフォローアップは、実施ができていない施設が少数であること、研修やフォローアップが実施できていないことに関しては、多くの施設で時間やマンパワー不足が理由である事が明らかになった。今後の痰吸引研修の実施やその後のフォローアップの実施のための検討にあたり、どのようにしていけば時間・マンパワーのない中で実施していけるのか考えていく必要がある。調査結果は 2024 年 4 月に協議会ホームページに掲載した。委員会内で繰り返し結果分析し考察した内容は、8 月 25 日に第 29 回日本在宅ケア学会学術集会(場所:鎌倉芸術館)の一般演題 B-8 群：サービスの質においてポスター発表を行った。 ・学会発表では、発表時に他県の現状を教えてほしいと問うた際に意見が無かったこと、

登録の看護師に直接情報を伝える案は学会参加者からの同意が多かった。また他県においても痰吸引の研修やヘルパーとの連携に関して今まであまり考えてこなかった印象があった。これらのことを参考にしながら委員内では、介護士の養成校では痰吸引の科目が入るようになってきているが、研究結果を用いて必要な方策を自治体に向けて提案していくことを今後検討する。

- ・委員内よりコロナ禍以降、訪問看護ステーションが情報の共有や効率的な連携方法をどのように行っているのか、ICT化と連携ツールとしての活用状況の現状と課題把握の検討案を元に「訪問看護におけるICTを活用した他機関との情報共有」として会員向けのアンケート調査を2023年12月8日～2024年1月20日実施した。アンケート配信数496件に対し回答数は130件(回答率26.2%)であった。他機関との連携の際に使用している主な情報共有ツールとしてICT利用は低く、電話利用が50-83.1%と高かった。電子カルテの使用率は85.4%であり、約25種使用していた。自由記載とし「統一したICTツールがあり一斉に共有できるものがあればと思う」、「情報の共有を1つのシステムでできるようにしてほしい」等の意見があった。他機関との連携の際は、情報漏洩のリスクが低い、緊急性や確実性、手軽さ、個人情報保護、記録として残す等、長所・短所を理解し、相手の業務状況に合わせて様々なツールを使い情報共有を図っていた。電子カルテの使用率は高いがレセプト目的が多く、統一したツールで情報共有できないことがICT活用に影響していると考えられた。調査結果は2024年4月に協議会ホームページに掲載した。委員会内で繰り返し結果分析し考察した内容は、8月25日に第29回日本在宅ケア学会学術集会の一般演題C-7群：組織管理においてポスター発表を行った。

- ・学会発表では、各事業所が使用している電子カルテの種類の多さに参加者からどよめきがあった。また「統一のツールが欲しい」という声は学会でも多々あった。発表時「病院とのやり取りで何かツールを使っているか」という質問があり、現状、共通のツールは無く、電話・FAX・メールを多く使っていると返答した。自治体で統一のデバイスはできないと自治体から言われているが、一部地域ではバイタルリンクやキュー神戸等、同じデバイスの使用により医師や多職種との連携強化になっている。全地域で統一のツールを使用するのは企業との利害関係もあり難しい。訪問看護ステーション数は増えているが小規模ステーションが多く、横のつながりが薄く地域連携BCPも進みにくい現状からもツールを使って情報共有できないことは、大きな課題といえる。

- ・兵庫県看護協会訪問看護総合支援センターへの第1回相談・質問事項の回答依頼が5月末にあり。6～8月に当委員内で回答作業を行った。

質問事項から、「進行性筋ジストロフィー症」の医療と介護の保険適応違いについて、報酬改定のリハビリ減算について、訪問看護緊急加算Ⅰとは何か、20分訪問の算定要件、医療保険の長時間加算、口腔連携加算について、パワハラや苦情対応への相談窓口の有無について回答した。

- ・兵庫県看護協会訪問看護総合支援センターへの第3回相談・質問事項の回答依頼が12月初旬にあり。1～3月当委員内で回答作業中である。

質問事項から、褥瘡の計画書が必要な対象者と評価内容について、特別指示書の条件、看護師が訪問できる範囲は自宅ではない場所(施設・親族の家など)でも可能か、難病とがん末期である場合の医療報酬・介護報酬の選択要件、精神訪問看護の必要項目、訪問看護指示書(リハビリ)について回答作成している。

2. 訪問看護ステーションの標準化を目指し、質の高い訪問看護を提供できるよう、必要なスキル等の基本的な情報の作成を実施し、ステーションの質の担保を統一する。

- 1) 作成にあたり、現状把握及び課題について分析し、地域の訪問看護ステーションが活用できる内容とする。

- 2) 訪問看護ステーション連絡協議会のブロック会で必要な情報を得る。

	3) 専門的な知識や情報についての助言をオブザーバーとして CNS、CN、有職者等の参加を依頼し、専門家の協力を得る。 4) 完成時は、他の委員会と連携し普及を目的とした広報活動を実施する。 5) 作成後の活用状況の把握等の客観的評価を行い、今後の普及活動に活かす。 6) 作成した内容は、最新情報を参考にしながら定期的に追加修正を図る。 ・「介護職員の痰吸引研修終了後の課題及び、訪問看護師によるフォローアップの現状と課題に関する調査」の調査結果をふまえ自治体に向けて提案していく前に、会員ならびに多職種に向けて発信していくことが大切であるとの意見が出た。現場にどう活かしていくことができるかを検討した結果、本人・家族、看護職や介護職等、関わる人それぞれの立場から痰吸引の具体的な事例を 4 コマ漫画など分かりやすく作成し、今後紹介していく予定である。
■活動の評価	今年度は「介護職員の痰吸引研修終了後の課題及び、訪問看護師によるフォローアップの現状と課題に関する調査」と「訪問看護における ICT を活用した他機関との情報共有」の 2 件のアンケート調査結果をまとめ、会員の方、会員外の方へ報告を発信することができた。特に学術集会で発表したことは、他県や他分野の参加者と意見交換や情報交換・共有、新たな知見を得る場になり、調査を行ったことの意義を改めて感じる事ができた。引き続き調査した結果をどのように現場に反映させていったら良いのか考えていくことが、看護の質向上につながると考える。 兵庫県看護協会訪問看護総合支援センターへ届く質問事項への回答作業は、エビデンスに基づく最新の文献情報を収集するなど時間を要する作業である。委員内で意見交換と情報共有を繰り返し行いながら作成することは、今現場で抱えている問題や課題、社会背景や地域差など、現状を知る機会となった。引き続き委員内で意見交換しエビデンスに基づいて参考になる最新の文献情報を収集・情報発信する。
■今後の課題	「介護職員の痰吸引研修終了後の課題及び、訪問看護師によるフォローアップの現状と課題に関する調査」の調査結果をふまえ会員ならびに多職種に向けて課題をわかりやすく提示し問題解決方法を提案していく。